

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609832		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	グループホームみずほ		
所在地	秋田県仙北郡美郷町土崎字厨川67番地2		
自己評価作成日	平成29年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔と笑いのあるグループホーム」を、職員一同で継続しており、職員が毎日楽しく元気に働き、自然に笑い合い、それにつられて利用者様が笑顔と笑いのある楽しい生活を送ることができる楽しい場所を作っている、これこそがグループホームみずほの最大のアピール点だと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の心身の状況に合わせてできることを生活の中に活かし、適切でさりげないケアが行われていることが機能の維持及び自立支援に繋がっています。職員は代表と気軽に話しやすい環境にあります。更にアンケートを実施して職員の思いを引き出し、運営に反映させる取り組みをされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修会の際、スタッフ全員で理念を再確認し、実践につなげています。	利用者ができることを職員と一緒にいき、生きがいをもちながら暮らせるよう取り組まれており、毎月業務を振り返りながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練の際に近隣住民様にも参加していただいたり、犬の散歩の際にホームへ立ち寄り、利用者様やスタッフと会話したりして交流しています。	周辺に民家が少ないものの、避難訓練に協力してくれる方がおり、また、利用者の負担にならない時季を選んで行事を企画し、近隣の方々と交流できる機会をつくっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	前年度も行いましたが、管理者の渋谷が地域包括支援センター及び他施設スタッフと、認知症サポーター養成講座を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の災害予想や昔の災害状況の有無等の情報提供を頂いたりし、グループホームの災害時マニュアルの見直しを、内部研修会にてスタッフ全員で行っています。	毎回テーマを決めて意見交換しています。参加者からは多くの意見、提案が出され、ホームの運営に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空床情報や入居待機者の情報交換を行ったり、地域包括支援センター主催の「美郷町多職種連携交流会」に参加し、事業所の悩み事等を医師等介護職以外の職種の方との情報交換なども行っています。	福祉事務所や包括支援センターと日頃から連携を図り、利用者の支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関しての内部研修会を行い、スタッフ全員理解した上で、身体拘束とまらないようなケアを実践しています(車椅子を長時間利用しないような配慮や日中の施錠の禁止等の実践)。	マニュアルや外部研修資料を使用して研修を行い、職員の理解に繋がっています。センサーマットを使用しない工夫をする等、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修会を行い、虐待の定義等スタッフ全員が理解し、虐待とならないよう日々のケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び成年後見制度に関する内部研修会を行い、スタッフ全員がその内容を理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分な説明を行い、その内容に不安や疑問点が無いかを聞き、利用者及び家族が全て納得された上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際、利用者様及びご家族様との会話の場を設け、状態報告やご意見を聞き、面会記録用紙に記入、それを業務に反映させています。	遠慮がちな家族の気持ちを推し測り、要望が引き出せるよう工夫しながら対応されています。月刊個人便りに写真を添付して利用者の体調や日常の様子を詳細に伝えることで意見が聞けることもあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や内部研修会の際はほぼ管理者も参加し、スタッフ全員に業務改善等の意見を聞き、業務に反映させています。	職員は代表と話す機会も多く、要望等を伝えやすい環境にあります。また、アンケートから職員の思いを引き出し、運営に反映できるよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前回同様、給与表、職務規定、就業規則の作成はもちろんですが、職員一人一人の思いを把握する為、職員全員にアンケートを実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修会や外部研修にて勉強できる機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親しくしている他施設との場を設け、お互いに行き来しながら情報交換等を行い、サービスの質についての取り組みを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接、アセスメント、基本情報、生活歴等の聞き取りも含め、今、何に困っているのか、どんな不安があるのか、どんな生活を望んでいるのかを聞き、介護計画作成時に反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様同様、面接、アセスメント、基本情報、生活歴等の聞き取りも含め、今、何に困っているのか、どんな不安があるのか、どんな生活を望んでいるのかを聞き、介護計画作成時に反映させています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業(食器洗い・拭き・収納、縫物等)、買い物、外食、各種レクリエーションを一緒に行うことで、家庭的な関係を築いています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際はご家族を招待したり、ご家族への電話を楽しんで頂いたりし、家族との関係を保っています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理容店やスーパーへの外出の支援を行ったり、家族以外の面会(友人・知人)も受け入れ、ゆっくりと会話を楽しんでいただけるような場を設けています。	お盆や正月に帰宅される方もおり、家族に関係性が継続できるよう積極的に働きかけています。得意なことや好きなことを日常に取り入れ、ホームでの暮らしに役立てています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席順の変更を常に行い、利用者同士のトラブルが無いよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所の際に、退院が決まったらどうしたら良いのかという不安があり、都度電話対応にてアドバイスをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を一緒に行いながら、普段の何気ない会話や表情・行動から、今・今後どのように暮らしたいのかをアセスメントしています。	思いを伝えることのできない利用者が多いものの、職員が気付いたことを申し送りして共有し、アセスメントに繋げています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接の際にご家族・本人・担当ケアマネに情報を聞き、入居後も本人及びご家族から必要な情報を提供して頂いています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、申し送り、介護記録、普段の会話・行動、レクリエーション、各種作業から、現状の把握を行なっています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人はもちろん、家族、みずほスタッフ、主治医や訪問看護師と話し合いや情報収集、相談、会議、モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	家族や関係者の意見を参考にし、利用者の状況を把握して意見交換を行い、作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録用紙、申し送り表、業務日誌に都度記入し、職員間で共有しています。それを踏まえて実践や介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護受給者の入院や退去後にまつわる心配が家族にある場合は、直接福祉事務所や他施設への問い合わせを行い、本人の豊かな暮らしを継続できるよう支援しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用しているかかりつけ医の受診継続を行なっています。定期受診以外でも、体調の異変があった場合は電話にて報告し、都度対応しています。	入居前からの医療機関で継続して受診されており、意向を大切にされた支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護サービスを利用中。定期のバイタルチェックや状態報告、各種相談を行い、アドバイスを受けています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際に契約期間を伝えてはいますが、多少期間を過ぎても際入居できる旨を伝え、治療に専念できるよう配慮しています。随時病院からの連絡や相談・状態報告も受け付けています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて家族への連絡を随時行い、今後のケアについて話し合いを行なっています。又、食事摂取が不可能になった方の受け入れ先を紹介したりもしています。	過去に看取りの経験があり、ホームとして希望に応じる体制はあるものの、現時点では医師の確保が難しく、利用者の状態に応じて対応を検討されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット発生時に再発防止に関する会議や、急変時の対応法に関する内部研修会をスタッフ全員で行なっています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防総合訓練を地域住民様と一緒に開催したり、非常食の備蓄も行なっています。又、水害に関して、運営推進会議で対策について話し合っています。	冬季の避難訓練も毎年行っています。訓練には近隣の協力があり、運営推進会議で出された提案を実施して報告されており、発生する課題や一時的な避難場所についても検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、個別の対応を行なっています。都度表情や口調も見ながら、その時に合った声かけや対応をしています。特に排泄に関してはプライバシーに配慮し、他者に聞こえないように声掛けや対応をしています。	利用者を尊重し、一人ひとりの状態に合わせたケアの提供に努めています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度会話の中で今何がしたいのか聞いてみたり、行動を見守っています。又、買い物の際は買い物を聞き、自分で選んで購入して頂いています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を観察又は直接聞いて、レクや各種作業等の参加の有無を決めています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気温や季節に応じた衣類をスタッフと一緒に選んだり、白髪を染めたいという方は、家族に相談し、染めてもらったり、行きつけの美容室にて白髪染めやカットを行なっています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に食べたいものを聞いたり、もやしの芽取り・野菜の皮むき、食器洗い・食器拭きの作業を職員と一緒に、会話しながら楽しく行なっています。	自主的に手伝ってくれる利用者もいて、できる範囲で準備や後片付けに参加し、職員が見守りや介助をしながら一緒に食事を摂っています。ホームの催しで地域の方や家族と一緒に食事を楽しめる機会もあります。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時に食事摂取量を確認・記録し、職員間で共有しています。又、入居前から、豆乳を飲むと便通が良くなる習慣がある方へはそれを継続しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯戦場とうがいを行い、時には口内を観察し、口内炎等の異変が無いかチェックしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を職員全員で共有・把握し、又、利用者行動を観察しながらトイレへ誘導し、トイレでの排泄を支援しています。	できる限りトイレで排泄できるように対応されており、機能が維持できるように支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維豊富な千切りキャベツの提供や牛乳の提供、噛みにくいものの刻み(生野菜は湯がくこともあり)、にて消化を良くしたりしています。又、毎日のラジオ体操にて、腸(お腹周り)運動への働きかけを行なっています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の血圧の状態や気分・体調を見極めています。「今日は入りたくない」ということが多い方へは、時間をずらして再度誘ってみたり、1日遅らせたりして無理強いせずに対応しています。	週2~3回入浴されています。拒否される方もありますが、入浴状況を確認しながら対応されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の活動状況で疲労を感じているようであれば自室やホールで休息できるよう都度声かけしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明が書かれたものを個人のファイルに綴じていつでも確認できるようにしたり、薬の変更があれば都度、申し送りの際に話したり、連絡事項欄に記入して、職員全員が薬に関して理解できています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や観察・アセスメント・家族からの情報収集において、縫物が得意だった方へは縫物の道具を提供したり、外仕事が好きだった方へはホーム周辺の清掃等を提供したりしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に物を取りに行きたいという方がおり、都度送迎しています。又、髪を染めたいという方は、家族に依頼して自宅又は美容室に連れて行ってもらっています。	通院の帰りや外出のついでに買い物をしたり、プランターの水やり等、戸外に出て楽しみが持てるように利用者それぞれに合った支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は行なっていませんが、利用者と家族間で管理している方はおり、通院時に自ら支払いしてもらっています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日や敬老の日、誕生日等に、遠方の家族から贈り物が届いた際は、お礼の電話をかけていただいています。又、いつでも電話等ができるよう支援しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの換気扇の常時使用、日差しが強い時の遮光カーテンの使用、障害物の有無の確認を行なっています。又、季節感を感じることができるよう、ホールの壁にその季節に合った絵を皆で色塗りし貼って、季節感を演出しています。	ホールは温湿度計を置き、窓を適宜開けて空調管理しています。テーブルの位置を適所に配置し、利用者が思い思いに過ごせる工夫をされています。入浴前後の体調管理に配慮できるよう、脱衣所には腰を掛ける場所が造り付けられています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファを活用して一人一人の居場所を設けたり、テーブルの席順を都度変えたりして対応しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に、使い慣れたタンスや馴染みの置物等、親しんで使用していたものを持ち込んでいただいています。	多くの物を持ち込んでいる利用者は少なく、慣れ親しんだタンスや出窓に飾り物を置き、自分の生活の場としての環境をつくっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を張ったり(希望者のみ)、トイレ前には「トイレ」とすぐにわかるよう貼っています。		